

きずな会では港区のグループホームや地域で単身生活をしている仲間が集まり、話し合いをしたり、行事の予定を一緒に考える活動を月1回開催しています。ここ数年は、新型コロナの影響から行事の実施が難しい状況が続いていましたが、ウィズコロナが日常となった今、どうしたら安心・安全に行事が出来るか、皆さんで意見を出し合いながら考えています。

【きずな会／月1回の定例会風景】



会長は2年間の任期となっており、4月のきずな会役員会で新しい会長を決めることになりました。「立候補する人はいますか？」の問いかけに、皆さん戸惑いや不安を感じられた様子で周囲を見回したり、うつむく中、広子さんが「やってみようかな、みんな助けてくれるし！」と手を挙げてくださいました。その決断の中にはきずな会の仲間への信頼があったように思います。

まだ、会長に就任されてから2か月ほどですが、話し合いの場では積極的に発言し、皆さんを引っ張ってくださっています。

そんな中、きずな会の会長として育成会大会で挨拶をしてもらえないかとの話をいただき、広子さんにお伝えしたところ、最初は「緊張するから…」と消極的な様子が伺えました。ですが、お話を聞く中で、ご自身の生き立ちや今の生活がとても楽しいことを言葉にしてくださいました。

その後は積極的な様子が見られ、「どんなことを伝えたいか」「みんなに知ってもらいたいことはあるか」とお聞きすると、「きずな会の活動を知ってもらいたい」「障がい福祉サービスを受ける中で感じている疑問について聞きたい」と話され、支援者と一緒に文章を考えました。

当日までに練習をしておきます、と意気込みを見せられ、きずな会役員会ではメンバーの前でリハーサルも行い、本番に臨まれています。

当日は、知っている人がいないのは不安と話される広子さんのために、きずな会メンバーも応援にかけつけ、雄姿を見守りました。

挨拶ではきずな会の活動の紹介に加え、【お願い】

として次のように話されました。

「私は療育手帳の判定がB2で交通機関乗車証が無料ではなく、割引証を使っています。仲間は無料乗車証を使っていますが、私はいつも半額支払って乗車しています。でも、その違いは私にはわかりません。みんなと一緒にいいです。」

【グループホームで一緒に生活している友人や作業所で同じ仕事をしている仲間と同じサービスがなぜ受けられないのか？】【仕方ないのはわかっているけれど、障がいのある人がより暮らしやすくなるようにみんなで考えてほしい。】という日常的に感じている疑問やご希望について、とても緊張しながらでしたがご自身の言葉で一生懸命に伝えられました。

また、そんな大舞台を終えて壇上から下りてこられた広子さんに駆け寄り、「すごくよかった！感動したよ！」「頑張ったね」ときずな会のメンバーが口々に声をかける姿は、まさに「絆」を感じさせるものでした。

【藤井会長の応援に駆け付けたきずな会メンバー
左から迫田さん、藤井会長、久保さん、藤井さん】



今回の育成会大会を通して、障がい者福祉の現場で働き、「きずな会」という本人活動に携わる者として、私自身もご利用者さまが望む「安心して心豊かにすごせる」暮らしの実現に向けた支援を行いたい、ご本人たちと一緒に考えていきたいとあらためて感じました。

そんな希望の実現に向けて、藤井広子さんをはじめとするきずな会メンバー、それに携わるスタッフも頑張っていきますので、ご支援ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

令和4年度 新人職員の紹介

令和4年度4月から採用となった大阪市手をつなぐ育成会の新人職員の皆さんをご紹介します。

趣味やこれからの抱負などをお聞きしました。